

令和3年度第1回向日市障害者計画策定委員会（書面開催） 会議録

- 1 日 時 令和4年2月4日（金）～2月18日（金） ※意見書提出期間
- 2 参加者 委員16名（意見書提出者）
拾井委員（委員長）、大橋委員、山本委員、久保川委員、増田委員、稲葉委員、井上委員、
植田委員、清水（陽）委員、下村委員、岡田委員、福井委員、三宅委員、田中委員、
夏川委員、桶谷委員

3 内 容

(1) 議事

- ア 向日市障害者計画策定委員会委員長及び副委員長の選出について
イ 第3次向日市障がい者計画進捗状況について
ウ 第5期向日市障がい福祉計画・第1期向日市障がい児福祉計画実績報告について
エ 第6期向日市障がい福祉計画・第2期向日市障がい児福祉計画進捗状況について

【概 要】

(1) 議事

- ア 向日市障害者計画策定委員会委員長及び副委員長の選出について
委員長に拾井委員、副委員長に森田委員を選出することについて、全会一致で承認
- イ 第3次向日市障がい者計画進捗状況について
（各委員からの意見等）
- ・コロナ禍においても良く成果が出ていると思う。関係各位の尽力に感謝する。
 - ・「障がいの理解を深める啓発の推進」で「啓発グッズを配布する」とあるが、実際配布された実物を見せてもらえたほうが理解しやすいし、身近に感じてもらえると思う。
 - ・「一部達成」となっている13施策のうち、コロナで実施できなかった6施策以外の7施策の進捗状況についてももう少し知りたい。特に、乙訓圏域での地域生活支援拠点等と関連して、2市1町の連携の進捗状況について伺いたい。
 - ・障がいのある人へのさまざまな取り組みがよく理解できたが、当事者や家族に周知できているのかが疑問である。発達障害のある子ども達の療育の充実や保護者への支援ももっと必要かと思う。又、親の高齢化に伴う支援の充実、コロナ禍における支援のあり方などの取り組みの必要性を感じる。
 - ・乙訓若竹苑の日中一時支援枠の確保はすでに利用している事が前提条件であり、急な対応時には対象者が限定される。又、ショートステイのような宿泊施設の拡充を図らないと長期間のレスパイトケアの実現には難しいのではないのか。共生型福祉サービスとして高齢者の施設との連携・協同も促進してほしい。

- ・身近でワンストップな相談を実現するために、日曜日や夜間帯に相談支援が利用できるように、6つの相談支援事業者が輪番制などで対応しているのか。
- ・「支援ファイル」「移行支援シート」はどのようなものか。2市1町で足並みをそろえると学校間でもより使いやすいものになると思う。
- ・乙訓障がい者就労支援ネットワーク「たけのこ」は、コロナ禍でも毎月オンライン会議を開催し、10月にはミニ企業交流会を実施している。
- ・施設外就労に対する補助が打ち切りになったことで、福祉施設が支援員を雇用する資金がなくなったと聞いている。
- ・グループホームなどの居住系サービスについては、圏域に増えていかない状況がある。短期入所を含めて整備促進をお願いする。
- ・公共施設のトイレと洗面所に杖を固定できるようにしていただきたい。
- ・向日市障がい者の日実行委員会の啓発グッズの件で委員に加わっているが、会議後に連絡がない。
- ・障がい者団体が行う啓発活動に今後一層のご協力をお願いしたい。
- ・学校教育では向日が丘支援学校と居住地校交流を行っている。相互理解のためにも今後とも小学校、中学校との交流をより一層行っていききたい。移行支援シートについては、随分普及してきている。向日が丘相談支援センターをもっと活用してほしい。
- ・「乙福で日中一時支援枠を確保している」として「一部達成」となっているが、何のことか理解できない。「引き続き2市1町で検討していく必要」とはどのようなことなのか。地域生活支援拠点についても同じような記述だが、行政として認識の共有を図れば「達成」となるのか。どう実現していくのかももう少しまとめた取り組みが必要である。

(事務局)

乙訓圏域で不足しているサービスや地域生活支援拠点の整備につきましては、長岡京市の共生型福祉施設構想・基本計画の基本施設として整備される予定であり、2市1町と京都府で構成する会議の中で、情報の共有や必要な機能などについて意見交換をしております。

ウ 第5期向日市障がい福祉計画・第1期向日市障がい児福祉計画実績報告について

(各委員からの意見等)

- ・計画相談支援の令和2年度利用実績は32名/月であるが、相談支援事業所6カ所に委託されており、実際に相談支援専門員が担当するケースはかなり少ないと考えるが、事業の収支などは妥当なのか。
- ・乙訓圏域として地域活動支援センター3カ所を継続していく事が必要か。I型で20名/日以上の利用者が必要にもかかわらず、令和2年度で1カ所あたり5名/月しか利用されていないのか。センターへ委託している補助金等も高額であり、利用者の利便性や地域性を考えるとIII型を複数設置する事でも良いのでは。
- ・計画相談支援など利用が増えている数値についてももう少し計画値を見直していく必要があるのではないか。児童発達支援や放課後等デイサービスなど、利用増の中身、サービス内容等点検も行っていく必要があると思う。児童への支援であっても実態として親の就労支援にもつながっている

ことを考えていく必要がある。

(事務局)

地域活動支援センターにつきましては、乙訓2市1町で協調して事業を実施しており、向日市の利用者は少ないものの、全体としては利用者数を満たしております。いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。

計画値につきましては、実績の推移やアンケート結果などをもとに次期計画策定時に検討させていただきます。

エ 第6期向日市障がい福祉計画・第2期向日市障がい児福祉計画進捗状況について

(各委員からの意見等)

- ・居住系サービスについては、特に重度の方が親亡き後生活する場の提供が増えず希望者も多い。障がいの程度によって支援量も違うので、将来的には障害支援区分別で達成状況がわかる取り組みを考えてほしい。
- ・放課後等デイサービスと留守家庭児童会での障がいのある児童育成とで、保護者が選択するポイントはどのあたりにあるのか。
- ・地域移行支援の令和5年度の計画（見込）について、例年実績がないため、「2」ではなく「1」ではないのか。
- ・「重度障害者等包括支援」が計画・実績ともに「0」になっているのは、対象となる方がいないということか。
- ・長岡京市で始まった「福祉的就労通所交通費助成事業」や、通勤や勤務時の重訪利用について、向日市でも今後検討していただきたい。
- ・旧乙訓ポニーの学校跡地に建築予定の障がい者施設について、建築設計予定図をみると、身体障がい者は利用ができないのではないかと。向日が丘支援学校の寄宿舎は令和4年度をもって廃止となるため、障がい児の短期入所場の確保していく必要がある。建築前に、施設を待ち望む家族会や事業所への説明会を開くように、2市1町で検討してもらいたい。身体障がい者の生活介護施設については、次年度以降課題になってくると思う。
- ・新型コロナの影響で移動支援等が利用できず、生活のバランスをくずしている方がとても気になっている。包括的な支援で代替できるような工夫はできないものか。障害児通所支援のあり方についても丁寧な相談支援を通して、保護者が納得のいく展望が持てるようにしてほしい。

(事務局)

旧乙訓ポニーの学校跡地に整備予定の施設につきましては、生活介護事業、グループホーム、ショートステイ、相談支援事業を提供する予定と伺っております。現時点では計画段階であり、今後整備に向けて手続きが進んでいく中で、運営法人などから説明が行われていくものと存じます。

障害児通所支援につきましては、現在国において基準等の見直しを検討されているところであり、その動向を注視しながら今後の在り方を検討しているところでございます。